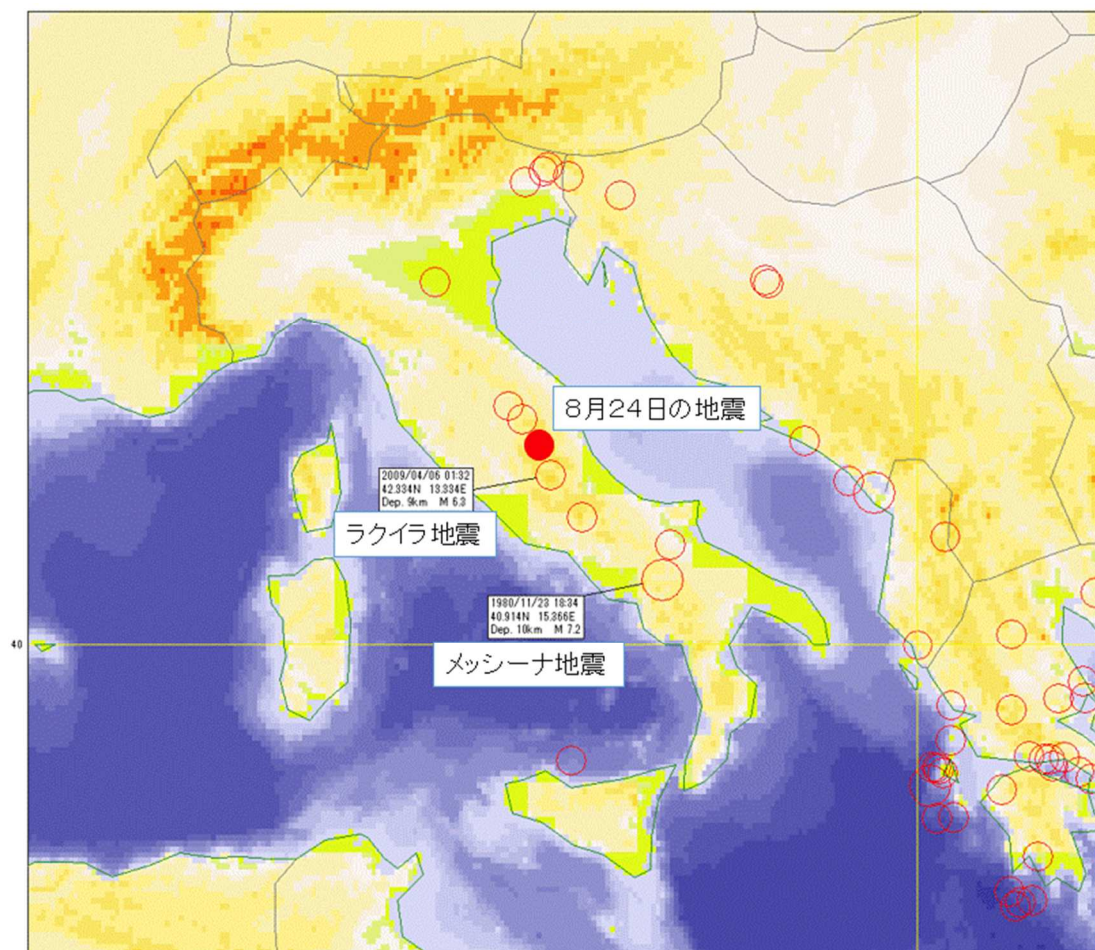


8月24日のイタリアの地震について

8月24日、イタリアで中規模の地震が発生しました。死者数はまだ確定していませんが、およそ 300 名が亡くなったと報道されています。熊本地震と同じような内陸の地震で、震源の深さも極めて浅かった事が地震の規模の割に大きな被害が生じた要因と考えられます。

下の図は 1900 年以降のマグニチュード 6 以上の地震を図示したものです。イタリア半島の中軸部に並んでいる事がわかります。今回の地震はその地震発生空白部分を埋めるように発生している事も確認できます。またギリシャを含むバルカン半島がヨーロッパでは地震活動が活発な地域である事もこの図からわかります。



イタリアも日本と同じように地震国であり火山国（ポンペイの遺跡は有名ですね）である事はご存知の方も多いと思います。実際 1980 年 11 月にはメッシーナ地震と呼ばれる地震が発生し、死者 2741 人、負傷者 8872 人という被害を出しています。また 2009 年 4 月にはラクイラ地震（死者 308 人）と呼ばれる地震が発生し、地震発生を否定した地震学者が一時訴追されるという事件が起きました。またこの 2009 年はイタリアでのサミット（主要国首脳会議）が開催される事になっていましたが、急遽この被災地ラクイラでサミットが開催される事になりました。当時首相であったベルルスコーニはサミットを被災地復興の足掛かりにしようとしたのです。

熊本地震と同じように、イタリア中軸部は何度も地震で被災しています。中規模の地震でしたが、大きな被害が出たのは、やはり建物の耐震性の不足が最大の原因です。



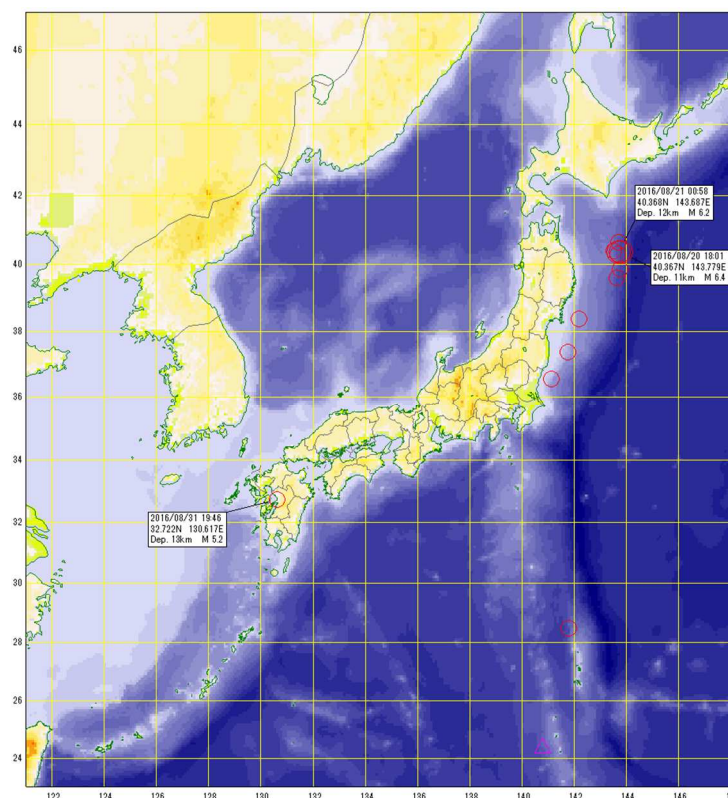
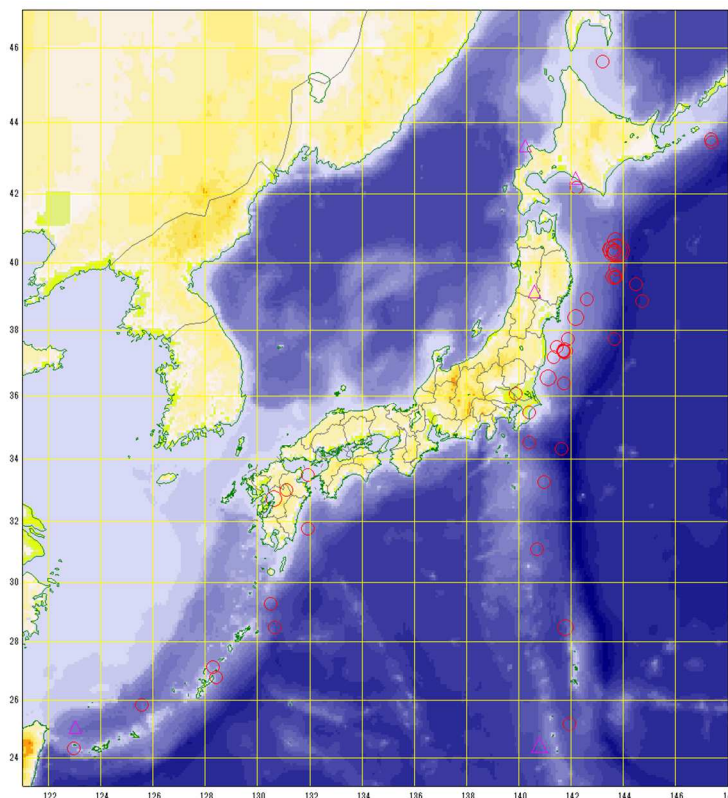
2016年8月の地震活動概観

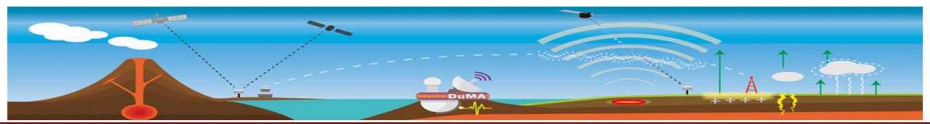
右の図は8月に日本周辺で発生したマグニチュード (M) 4以上の地震 (深さは300kmまでで発生したもの) を示してあります。今月は**全部で53個**の地震が発生しました (前月は75個)。図中の○は深さ100kmまで、△は深さ200kmまでに発生した地震です。それより深い所で発生した地震は△で示してあります。

右下の図は6月のマグニチュード (M) 5以上の地震です。今月は**全部で13個**発生しました (先月は9個)。最大の地震は8月20日に三陸沖 (浦河沖と表現される事もあります) で発生したM6.4の地震でした。また31日には熊本で久しぶりにマグニチュード5を超える地震 (余震) が発生しました。

三陸沖 (浦河沖)、特に青森沖は東日本大震災の時に地震の破壊が及んでいない場所です。日本列島の地下 (地殻) は、当然ですが岩石で埋め尽くされており、隙間はありませんから、東日本大震災で茨城・福島・宮城・岩手県沖が大きく動いて、それより北側 (今回の場合の青森沖とか浦河沖と表現される地域) が動かないという事はありえません。地殻はジグソーパズルのピースのように組み合わさっていますので、地震学的には青森沖 (浦河沖) や南側の房総半島沖で、今後津波を伴う地震が発生する事は確実です。DuMAでもこれらの地震を見逃さないよう、地下天気図®だけでなく、別の解析手法も併用して監視していきたいと考えています。

次回のニュースレターでは、8月に更新されたM8アルゴリズムによる日本周辺での5年間予測について触れたいと考えています。実は青森沖・浦河沖がキーワードとなっています。





首都圏の地震活動は活発化しているのか？（続報）

8月1日のニュースレターで、7月に話題となった首都圏の地震活動の活発化に関する報道についてコメントしました。7月は確かに首都圏での活動が増えましたが、8月末までのデータではどうなっているのでしょうか。

8月1日のニュースレターの3ページ目と同じグラフを8月末まで延長してみました。結論として8月には関東地方でマグニチュード4.5以上の地震は発生せず、7月の有感地震の増加は、地震活動度変化のゆらぎの範囲内であったと言う事ができると思います。

